# これぞ肝っ玉母ちゃん

## 山口県下松市の原井育子さん

みんつど七号の特集号は、下松市の原井育子さん＝写真＝にスポットをあてます。

原井さんは身体障がい者のご家族を持つ経験があり、現在はご自宅で気軽に集えるサロンを開いていたり、本を出版したり、さらにはお子さんは元格闘家もいらっしゃったりとかなり「オモシロい？」というか「カッコいい」女性です。

今回は、原井さんのインタビューを特集します。お楽しみに。

（天地成行）

みんつど

第七号

編集　天地　成行

村岡鍼灸治療院
山口市湯田温泉５丁目６の１２

# 障がいは「宝物」

## 兄と父と過ごした日々

## 原井さんが思う現実

天地が原井育子さんとであったのは、数年前。ある方から、「こんなおもしろい本を書いている人がいるよ」と手渡された本が非常におもしろかった。

高校進学ができるかどうかの瀬戸際に立たされた次男に向かい受かったら、「あと三年は勉強をせんにゃあいけん」し、落ちたら「あんたは勉強しなくていい」とし「どちらもチャンスじゃん！」というような一節や、障がいをもつ兄や父、介護する母の様子を非常にユーモラスに描いている。本のタイトルは「へんてこな家族」。くわしく話してみたくなった。

◇

天地　こんにちは。コロナ禍で大変ですね。

原井　そうなのよ。長男なんかそのせいで仕事を失ったのよ。でも、実家に帰ってきて、二人で散歩したりいろんなおしゃべりしてますよ（笑）。

天地　そんな大変なことがありながら、明るいですね。きょうは、原井さんのことに興味があって詳しくお話をお伺いしたくてきました。原井さんは、身体障がいをお持ちのご家族がいらっしゃったのですよね？どんなご家族ですか？

原井　兄と父が障がい者でしたが、介護していた母も含めて亡くなりました。兄は私が物心ついたときから小児マヒで、一人でなにもできずいわゆる「人任せ」の人生でした。よくききとりづらい声で「死にたい」と毎日もらしてましたね。父は脳こうそくに大腸がんを患い交通事故になりました。亡くなる一年前に首の骨を折りました。よく生きていたなと思いますね。「へんてこ」なのは、母は再婚でして、前の旦那との間に兄が生まれてその前の旦那が亡くなって兄をひきとったところ、前の旦那側の両親がついてきた（笑い）。そして、私は母と父との間に生まれました。父はよく耐えたなと思いますね。

天地　そうですかあ。そんな境遇だとなかなか現実を受け止めるのに時間がかかりそうですね。

原井　だから逃げる空想もしましたが、受け止めるというか「くるならこい」という感じになり、兄の食事などの介助をしましたね。兄の話が長かったり、面倒になると、「うるさい」とかいったりして（笑）。でも兄は寄り添う私に笑ってばかりいましたね。年も１１違いましたし。私もつきはなして口は悪いですけどね。

天地　身体障がいの方などをみられて、どうお感じになられますか？

原井　その人の特徴ですよね。言葉を変えると「宝物」。かかわるだけで宝物をもらう。自分以外を知る、こういうことで悩むんだ、喜ぶんだと思いました。

ご意見ご感想はメール

docomo.komo.2019@gmail.com

レストハウス
たんぽぽ
岩国市川西４の５の１５６
TEL（０８２７）４３の３０３３

# 甘口はみんなの居場所

## 「いつか店にしたい」

天地　子どもさんが三人いらっしゃいますね。どういう子育てをされましたか？

原井　まあ男の子三人なんで、いろんなところで謝ってばかり（笑）。でもなるべく自由にさせてました。「あれしちゃだめ」とかいうのは簡単です。自由にさせることで本人たちも責任感ももつ。もちろん悪いことをしたらしかる。自由にというのは例えば、うちはいつでも集まってお泊りOKだったのですが、食べること風呂入ることはしてきて、と。喉乾いたら水のんどき、という感じ。干渉一切しないからもてなさない。お土産はいただきますというスタンス（ちなみに次男は元格闘家の原井徹さん）。

天地　すごい。サロン「つなぐ」を開設するにあたってきっかけになるようなことはあったのですか？

原井　長男がアトピーだったのもあると思いますね。4年間も苦しんで、中学、高校時代と大変でした。サロンはもともと、みんながうちに集まってわいわい言って帰るといったところから始めてみたいと思いました。今は初回１０００円いただいて、いろんな悩みなどを話していただいています。ケーキとコーヒーなどでもてなしてお話をうかがいます。その中で、薬膳コーディネーターや離乳食などの勉強をしたので、特に健康について興味があれば、本を冊子にしてわかりやすく勉強できるようにしています。ほかにも、万能だれの「甘だれ」や子どものおやつをつくったりしています。サロンは場所の提供なので、できれば将来は家を改築して店にして、いろんな人と話して昼食を食べたりしたいですね。

天地　甘だれはおいしそうですね

原井　しょうゆにみりん、砂糖にプルーン、酒を入れてまぜます。いかがです？（天地に提供する）

天地　う～ん。おいしい。なんだか、おいしいせんべいを液体化したみたいですね！

原井　そうなんです。甘いけどプルーンが罪悪感をカットしてくれているの。

天地　（冊子を手に取り）冊子は薄くて、わかりやすく健康のことが書かれていますね。

原井　本はやっぱり厚いので自分なりにアレンジしますね。

天地　原井さんのパワフルで自信あふれて、しっかり根の張った感じってどこからくるんですかね？

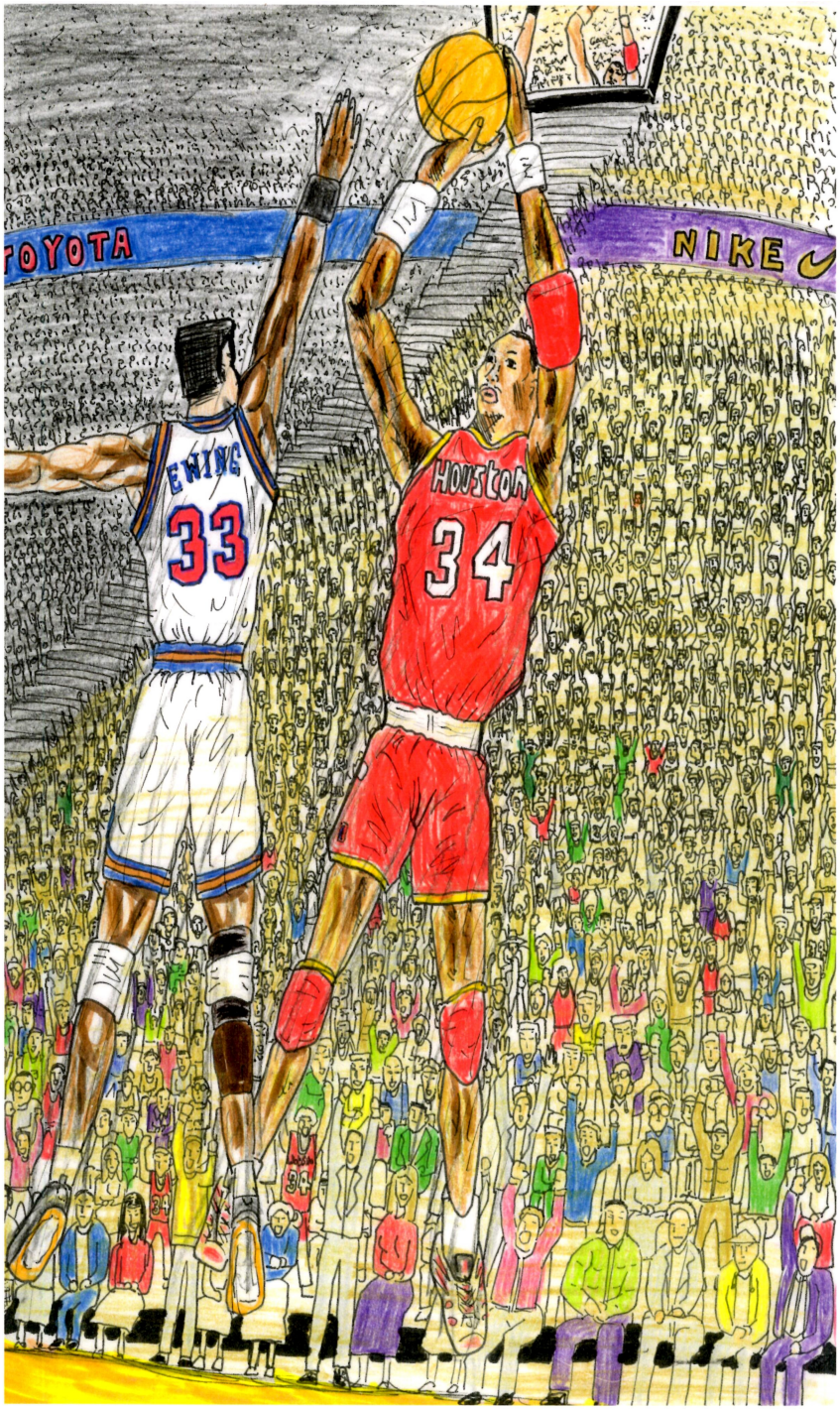
原井　変な話ですが、私は不幸になるはずがない！だって神様に選ばれたんだから。と思っています。いろいろあるけど最後は幸せになる、何が起こっても大丈夫、だもーんという感じです（笑）。私、幸せだもーん、って。

## 魅惑の著書「へんてこな家族」の問い合わせ

原井さんの家族のことを赤裸々につづった「へんてこな家族」は入手可能です。問い合わせは原井さんTEL（０９０）１３５９９５７８。

コロナウイルスと闘う
医療関係者の皆様へ
心より感謝申し上げます

出版
ウェブ制作
株式会社 くるとん
〒742-0417
岩国市周東町下久原221-1
TEL0827（81）1551
https://crouton.co.jp




金光光雄ギャラリー
「３ポイントいただきだぜ！」

## 後記　「心のワクチン」にしたい

ドラマ「半沢直樹」を観て眠れず、自分が半沢になったような高揚感の中で、午前二時を迎えた。しかしおもしろいドラマで毎回ハラハラする。とても現実にはこのような人にはなれないなあ。

翻って今、世界はコロナ禍である。そこで求められるのは、はやい収束だろう。特にワクチンの開発であろうか。これを成し遂げたら、半沢どころの騒ぎではないであろう。そして、そんなことはさらにさらに、自分にはできないなあ。

うーん、この深夜二時にわたしが考えついたのは、「少しでもみんつどで心のワクチンを届けたい」という思い。大げさだなまた……。

しかしながらそうでもないようだ。

「やさぐれていた心がやわらいだ」

みんつど６号を読んだあるエッセンシャルワーカーからの感想。

「えっ、こんなもので？」

わたしはすぐには理解不可能だった。そしてかなりの間、６号を分析してみた。

そういえば、安渓先生もウェブに載せたよとの連絡の中で「このくらいゆる～いほうがいいよ」といっていただいた。

「うーん、そうなのかあ。わたしとしてはいつも以上に手を抜いて作ったのだけれなあ」とは思ったものの、その「抜け」具合が受けたのかも。金光さんも高く評価してくれたし、わからないものである。ほかの方からもエールをいただいた。ここに感謝申し上げます。

さて原井さん。

パワフルな方です。非常に礼儀正しいながら筋が通った素敵な方ですね。応援したくなります。また遊びに行こう。（天地）

大人世代　癒しの空間
cafe　おだやか
周南市桜木３の５の１５
TEL 090（3462）0037